

# 地質ニュース

昭和 58 年 5 月

第 345 号

1983

昭和58年度の地質調査所の研究—特別研究など—	企画室	6
唐山地震・その被害と抗震防震	高橋博 越井一 大村正 好	14
昭和55年における日本の物理探査活動	小林吉 小野吉彦	28
海底熱水鉱床について	湯浅真人	34
備品調査の集計結果 ——マイコンによる備品管理——	金山康夫 沢田敬一	46
タービダイトの話(4) 古海底扇状地堆積物を斬る(成因編)	徳橋秀一	54
50万分の1地質図幅「京都」第4版	田中啓策 山本直利 吉田史 吉宮孝	63
5万分の1地質図幅「神津島」	色直記	66
口 絵 チリ北部 エル・ラコの磁鉄鉱溶岩	石原舜三 F. エンリケス	

## 編集 地質調査所

### 表紙の写真

チリ北部 エル・ラコの鉱石マグマ

火成作用に伴う重金属鉱床のほとんどは、マグマの残液に不純な水に溶けた形の重金属が繰返し沈澱して富鉄部を生じ、生成したものと考えられる。しかし、この様な希釈溶液からの沈澱ではなく、もともと重金属が50%以上の鉱石マグマ(ore magma)が地下にあって、それが上昇冷却することにより、鉱床を生成する考え方は古くから一部の人に注目されていた。ここに紹介するエル・ラコ火山の磁鉄鉱(±赤鉄鉱)鉱床は磁鉄鉱マグマが地上に隘流したもので、鉱石マグマの好例と考えられる。

写真は残雪がまだ多い早春のアンデスの山並みを背景にした北側のサン・ピセンテ・フルト鉱体である。磁鉄鉱流(中央黒色部)は火山の側壁から隘流し、噴出部は小規模なカルデラの壁に相当する考え方もある(口絵参照)。磁鉄鉱流は噴出口の近くに分布し、その表面の形は一般には玄武岩溶岩のものによく似ている。

[写真 F. エンリケス  
文 石原舜三]

発行 株式会社 実業公報社